

令和3年7月6日付山陰中央新報

論理的思考力養う授業を

大田で改善策探る研修会

大田市内の小中学校の授業改善につなげようと、市

役所で5日、県立大人間文

化学部の齊藤一弥教授(教

育学)を招いた研修会があ

った。教員ら約50人が参加

し、子どもたちの論理的な

思考力、判断力を養うため

に必要な授業の留意点を学

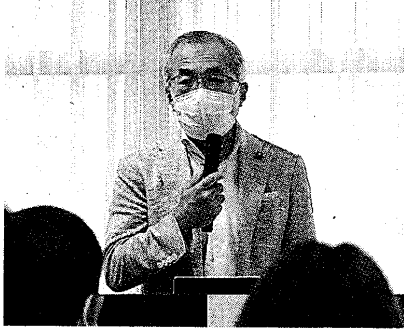
んだ。

齊藤教授は高知県教育委

員会の教育課程推進専門官

を務め、全国学力テストの

順位向上などの成果を挙げ



授業改善に向けた留意点を説く齊藤一弥教授。大田市大田町、市役所

ている。

新たな学習指導要領や1

月の大学入学共通テストを

例に「自ら考え、解決策を

導き出す子どもたちが必要

とされる時代。論理的な思

考、判断が要求される」と

解説。

ポイントとして「何を

教えるのか」ではなく、ど

んなことができる子どもに

するのか、そのために何を

教えるのか」という考え方

が大切になつてくるとし、

能力を始発点とした授業づ

くりが必要だと強調した。

そのために、教員側は発

想の転換を求められる部分

が出てくると指摘。各校が

組織的、計画的に教育活動

の質の向上を図っていくこ

とを促した。

研修会は、齊藤教授の協

力を得て、教員の指導力向

上に努める市校長会が主催

した。

(錦織拓郎)